vol. 2

# 月光浴通信

タイトル

## 2 回目　ミニ勉強会しました～！

「地域生活支援
拠点事業ってなんだ？」

**児童デイサービス月のひかり**
**ショートステイサービス月のひかり**

電話番号
023-665-5385
Fax
023-665-5387

メール:
sp-tukinohikari@sunny.ocn.ne.jp

発行

2020.1.7

「月光浴」

月のひかりには、精神的な癒しや浄化の効果があると言われています。この通信が皆さんにとってそのような存在？になれるよう。。（書いて恥ずかしい。。）不定期ですが発信していこうと考えていますので、ご意見やご感想、お叱りなどお寄せ頂ければ幸いです。　M

**あけましておめでとうございます。**本年もどうぞよろしくお願いいたします。

### ※[1] 地域生活支援拠点（きょてん）ってなんだろう‥

さて、先日 12 月 10 日に第 2 回の保護者向け、ミニ勉強会を開催しました。急な案内にもかかわらず 10 名の保護者の方にご参加いただきました。今回は「地域生活支援拠点事業」の話でした。少々硬いタイトルで最近地域や支援なんて言葉が溢れかえっているのでチンプンカンプンですよねー。実はこの事業、お子さんの将来にかなり密接に関連していて、この整備が整っているかいないかでは大きな差が地域で生まれそうなんです。山形市は令和 2 年度末までの整備を予定していますが中身がまだ不透明な状況です。当日のお話のおさらいになりますが、先ずこの拠点事業の柱になる 2 つの目的は以下のとおりです。
①緊急時のタイムリーな相談と、ショートステイの活用
②親元から自立した生活を目指すための体験の機会
この 2 つを実現するために、施設を準備して実施する方法（多機能拠点型）や、既に地域にある資源を活用して新たな機能を持たせたりする方法（面的整備型）があります。**山形市は面的整備**での設置を考えています。市内にある、ショートステイの事業所やグループホームの事業所等と連携しつつ前記した 2 つの体制を整備する方向性です。そして、様々なニーズを調整するコーディーネーターの配置も必要となっています。急な事情があり突発的にお子さんを預けたい！将来の為に自立できる環境で体験してみたい！これらの事情は当たり前に目の前にある事情ですよね。このことに対し、「ショートステイの空きがありません」とか、「体験目的の部屋はありません」は、設置した後は言わない地域にしていくということです。

**「緊急」**って、どんな事情が緊急なんだろう？誰もが納得できる事情と、その家族にとっては緊急と思うことも他から見ると？っていうこともありますね。あとは、コーディネーターがどのような判断をしていくか見えないところがあります。大切なのは、こうあるといい。この地域はこうだといいという議論が大切になるということですね。山形市がどんな拠点整備を目指すか皆さんこれもよーく注視していきましょうね。

その後、南原にある心音のグループホーム「**来未（くるみ）**」を見学しました。愛泉会のホームは※[2] 支援区分が高い方（区分４以上の方 80%）が多いのですが、心音は重い方でもアパート型が多く前回の「いちごはうす」のタイプとまた違うホームでした。基本１Ｋで、お風呂、トイレ付きのワンルームです。（写真）サビ管（サービス管理責任者）の方から直接説明を受け、お母さん方からも色々質問も出ていました。「洗濯物はどうするの」「インフルエンザのような感染症になったらどうするの」「どうやったら入れるの」と質問があり、サビ管から詳しい説明を受けていました。先にお話ししていた体験についても今のグループホーム等では柔軟に利用することは難しい状況です。

※1　障害児者の重度化、高齢化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための機能（相談、緊急時の受け入れ・対応、体験の機会・場、専門的人材の確保・養成、地域の体制づくり）を、地域の実情に応じた創意工夫により整備し、障害児者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制のこと。

※2　大人になると支援度合いを測る尺度があります。区分認定調査員が自宅などに伺って、身体状況や生活面、行動面の聞き取りをして、審査会という機関で最終判定される仕組みです。区分は 1～6 段階あり数字が多くなると支援度が上がるイメージです。また、区分により利用出来るサービスが限定される場合があります。

※3　グループホームは利用定員があり、その枠内での利用が原則です。事業者へ支払われる報酬は、上記した区分ごとに個人ごとに設定され事業者へ支払われます。その額は決して高いものではなく、事業者は、常に定員を満たして運営しなければ経営的に難しい仕組みとなっています。

◗月のひかりの支援状況について

統合してからの、月のひかり班とぷるぷる班の子どもたちは、スタッフの心配をよそに良い関係性が増えたり、活動の幅が広がったりと、子どもの順応性や適応力の可能性をあらためて教えらています。一方で、現在の環境が苦手な過敏な子どもたちへの配慮や個別の支援体制は整わず、子どもたちへ負担をかけています。今後は月のひかりの**支援の質の向上**が最優先の課題だと思っています。この点に関しても是非、保護者の方々のご意見やご要望をお聞かせください。

◗事業所評価について

２月には「放課後等デイサービス評価」を皆様にお願いすると思いますのでその節は宜しくお願い致します。

ある程度、仕組みは分かってきたけど、やっぱり使えないサービスなんだぁ。と感じた方も多かったと思います。

(写真は、来未（くるみ）　の一室)

福祉サービスの中でも特に居住系のサービスは運営上、部屋に空きをつくることが難しい状況です。※[3]**理想と現実**も併せてお伝えする事になりました。でも、この現実を将来の子どもたちのために**変えていく事**も必要だと思います。実は一番そこが大切かと考えています。その切っ掛けが「拠点」かもしれませんね。

☽☽☽☽☽☽☽☽☽☽☽ スタッフの声 ☽☽☽☽☽☽☽☽☽☽☽☽☽☽☽☽☽☽☽☽☽

親御さんの将来に関する思いを聞き、私たち職員も情報の発信が少なかったのではないかと反省しました。勉強会の内容では私自身わからない事もあったり、ＧＨの質問でも皆様の生の声を実際に聞けて私自身も考え方が変わったり大変良い経験になりました。（多田）

『子どもの将来について』。これからの人生を大きく左右する判断ですね。県内でも様々な選択肢があるようですが、満床・満員・本人に合うかどうか…。選択肢はあっても現実的には悩むべき点は沢山あるかと思います。私たち職員も、日々研修や勉強会を通して『成人に向けた福祉提供のあり方』について学んでいます。今回の勉強会では、実際にＧＨの見学を取り入れ、『ＧＨは徹底された監視のもとにある』といった堅苦しく窮屈なイメージを払拭できたのではないでしょうか。少しでも『本人の過ごしやすさに合わせた選択』の参考になれば幸いです。また、どんなことでも気軽にご相談ください。将来についてや日頃の支援について、みな様のご意見や思いが、子どもたちの支援へと生かされます。微力ではありますが、今後も皆様にお力添えできればと思っています。（石川）　　ＧＨ～グループホーム

次回は**２月２７日**に今年度最後の勉強会を開催予定です。１年の振り返りと、来年度に向けて皆様のご意見などをお聞きする機会にしたいと思いますので、奮ってご参加ください。